

授業科目名・形態	社会学	講義	必修・選択の別	必修
担当者氏名	赤羽卓朗	開講期	1年前期	単位数 2

【授業の主題と目標】

近年、出口の見えない長期的不況が続くとともに、わが国の産業社会は大きな転機を迎えている。また、世界に類を見ない速度で少子高齢化が進行し、人口構造が変化するとともに本格的な人口減少時代に突入してきている。国の財政構造は大きく歪み、財政難は深刻さを増している。

こうした見通しがきかない社会の状況にあつて、年金、医療、介護・福祉など社会のセーフティネットが今後どのように維持されるかに、多くの人々が不安を感じながら暮らしている。

弱い立場にある人々に寄り添い、生活課題の解決を援助するためには、生活空間である「社会」についての幅の広い知識と確かな知識に基づいた「思考力」が求められる。社会学の基礎を学ぶ中で、「社会」を知り、「社会」を考える力を身につけてほしい。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 社会学とは
- 第 2 回 社会システム
- 第 3 回 法と社会システム
- 第 4 回 経済と社会システム
- 第 5 回 社会変動、人口からみた社会変動
- 第 6 回 生活のとらえ方、家族
- 第 7 回 地域
- 第 8 回 社会的行為
- 第 9 回 社会的役割
- 第 10 回 社会集団と組織、社会的ジレンマ
- 第 11 回 社会関係資本と社会的連帯
- 第 12 回 社会問題のとらえ方
- 第 13 回 日本社会と社会問題
- 第 14 回 共生社会と権利
- 第 15 回 まとめ～日本社会の現状と課題～
- 第 16 回 試験

【授業実施方法】

講義

【教科書等】

社会福祉士養成講座編集委員会編3「社会理論と社会システム」中央法規、2010年

【参考文献】

特に指定しない

【成績評価方法】

出席状況、レポート、小テストと定期試験成績の総合評価とする

【学生へのメッセージ】

教科書を必ず読み、疑問点を整理して毎時間出席すること

授業科目名・形態	化学	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	奥野智旦	開講期	1～2年 前期	単位数	2

【授業の主題と目標】

化学は物質の構成単位（元素・原子・分子）とそれらの組み合わせ（化学反応）を理解し、物質を分析・創造して自然の解明や文明への利用を目的とする学問である。ヒトはエネルギー、医薬品、栄養、素材、生活用品等の化学物質を利用している。この授業では、化学の基礎を復習しながら、我々の生活や生命の仕組みに密着する代表的物質を取り上げ、現代物質文明を化学という学問領域から理解し、各自の教養となることを目的とする。

原子力および電池エネルギーの産生や有機化合物のプラスチック（ポリマー）・医薬品・栄養物および生物生産における遺伝子利用等と化学物質（分子）の関連・役割について学ぶ。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 原子力エネルギーとは：原子・分子・元素の種類・放射性同位元素
- 第 2 回 ウランからどうしてエネルギーが生産されるの？・核分裂反応
- 第 3 回 原子力発電の仕組み・安全性・危険性と問題点
- 第 4 回 電池による電気エネルギーの生産：酸化・還元反応による電子移動・乾電池、燃料電池
- 第 5 回 太陽光や水素から電気エネルギーを作り出す太陽電池・水素燃料電池
- 第 6 回 プラスチックの種類と多様な機能・用途生活必需品とポリマー：多様な用途と化学合成の成果
- 第 7 回 プラスチックの化学合成、天然高分子と合成高分子
- 第 8 回 プラスチック廃棄物と環境問題
- 第 9 回 薬と化学：有機化合物の構成元素と部分構造・官能基
- 第 10 回 有機化合物の反応
- 第 11 回 西洋医薬・漢方薬、天然物から薬の発見・化学合成による薬の開発
- 第 12 回 ドラッグデザインとは、様々な薬（性ホルモン・鎮痛剤・麻薬）と化学構造
- 第 13 回 食品に含まれる元素・3大栄養物質（炭水化物・脂肪・タンパク質）
- 第 14 回 ビタミン・ミネラル、食品から得られる代謝エネルギー
- 第 15 回 食事の量と質、肥満と病気、世界の食料事情、食品保存剤
- 第 16 回 試験

【授業実施方法】

講義

【教科書等】

最初の授業で説明

【参考文献】

「教養の現代化学」（三共出版），「実感する化学」（上・下）（NTS）

【成績評価方法】

出席状況・小テスト・期末テストの総合評価

【学生へのメッセージ】

食品をはじめ、身の回りのすべてが化学物質である。化学を理解して安全に賢く、21世紀を生きよう